

令和2年11月30日

砺波医師会誌

杏和だより

第213号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕 ・安倍首相の辞任理由	
「潰瘍性大腸炎の悪化」は〇〇だった？	藤井 正則 2
〔砺波医師会役員〕	3
〔活動報告〕	4
〔追 悼〕 ・永井忠之先生を偲ぶ	山本 郁夫 8
〔散 居 村〕 ・私のガーデニング	金井 英子 9
・『ドレーンから〇〇が…』	金木 昌弘 11
・薪ストーブの楽しみ	金田 学 12
・新型コロナ騒動で気づいたこと	河合 晃充 13
・学校医になって50年	河合 康守 14
・30年ぶりのピアノ	川渕奈三栄 15
・あらためて歴史に学ぶ	清原 薫 16
・コロナ禍に思うこと	酒井 伸也 17
・「人と人との距離」	坂下 英雄 18
・ご利用は計画的に	坂下 泰雄 19
・今思う 昭和の歌、あれこれ	佐藤 重彦 20
・雑感	澤田 樹佳 22
〔新入会員紹介〕	ものがたり診療所 若栗 良 23
〔編集後記〕	豊田 葉子 24

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 藤井 正 則

安倍首相の辞任理由 「潰瘍性大腸炎の悪化」は〇〇だった？

砺波医師会

会長 藤 井 正 則

安倍内閣は7年8か月という歴代最長の内閣となりました。アベノミクスによる経済効果やオリンピックを成功裏に開催する事で、政権末期に発覚した森友加計問題や桜を見る会の疑惑について有耶無耶にスルーしようとしたましたが、証拠隠滅、隠蔽、改ざん、口裏合わせ体質、そして事実を頑なに認めようとしない官邸の方針もあり、批判は日に日に高まるばかり。そしてダメ押しはこの新型コロナウイルス感染症です。アベノミクスやオリンピック開催を見事に吹き飛ばしました。政権支持率も30%台と過去最低を目前に、持病の潰瘍性大腸炎が再発し、国民の負託に自信を持って応えられる状態でなくなったという理由で任期半ばで首相を辞任しました。それにしても野党です。政権の揚げ足取りをするばかりで、肝心の政策論争は蚊帳の外です。この不甲斐ない野党を代弁するのが如く、テレビドラマ「半沢直樹」は、感情移入し易い勧善懲悪に徹したストーリーが支持され、決めぜりふの「やられたらやり返す」や「倍返し」、そして役者陣の大袈裟な演技も相俟って令和版痛快時代劇として高視聴率を獲得しました。ドタバタ総裁選により安倍内閣を引き継ぐ形で誕生した菅内閣。「国民のために働く内閣」を掲げ、スタート時の内閣支持率は60%以上です。安倍首相の辞任理由「潰瘍性大腸炎の悪化」は嘘じゃないかと思われる程の手際よさと閣僚は実務重視の布陣です。セクシー発言のあの大臣は残留しましたが、パソコンに触れた事のないサイバーセキュリティ大臣という冗談の様なお笑いは微塵ありません。今後は何とかしてくれという国民の声にどう応えるか？当面の最優先課題は新型コロナウイルス感染症対策であろうと思います。先般、厚生労働省から「新型コロナウイルス感染症に関する検査体制の拡充に向けた指針」が示され、早期に新たな検査体制整備計画を策定するよう要請されました。県厚生部からも説明がありましたが、官からの要請や指示に右往左往する事なく、地道に地域医療を維持して行きたいと思う今日この頃です。

(9月末日記 藤井正則)

砺波医師会役員

藤井会長

伏木副会長

① 砺波医師会担当業務
(令和3年6月まで)

② 富山県医師会担当業務
(令和3年6月まで)

監	事	理							副会長
豊田 葉子	住田 亮	津田 博	河合 博志	柳澤 伸嘉	網谷 茂樹	山下 良平	佐藤 重彦	大澤 謙三	伏木 弘
① 広報・ネットワーク	② 乳幼児・学校保健	② 男女共同参画 ① 広報・ネットワーク	② 勤務医部会 ① 病診連携、地域保健	② 広報、特定健診・がん検診 ① 広報・ネットワーク、地域保健、特定健診・特定保健指導	② 産業保健・健康スポーツ、学校心臓検診 ① 産業保健・防災、庶務・会計・記録、准看護学院	② 学術・生涯教育 ① 学術・生涯教育、病診連携、在宅医療	② 救急医療 ① 救急医療・急患センター	② 在宅医療 ① 在宅医療支援センター協議会	② 社会保険、在宅・福祉・介護 ① 庶務・会計・記録、保険診療部会、介護保険

議長	山本 郁夫	副議長	山下 泉
顧問	河合 康守		
裁定委員	吉田康二郎	杉本 立甫	

役 職 名	氏 名
富山県医師会理事	河合 晃充
富山県医師会裁定委員	山本 郁夫
富山県医師会代議員	藤井 正則・伏木 弘
富山県医師会予備代議員	大澤 謙三・山下 良平
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	網谷 茂樹
富山県医師信用組合理事	網谷 茂樹
富山県医師協同組合理事	藤井 正則
富山県医師協同組合総代	伏木 弘・金井 正信
	柳下 肇・豊田 葉子
富山県医師連盟執行委員（支部長）	藤井 正則
富山県医師連盟執行委員	河合 晃充

活動報告

(令和元年12月～令和2年10月まで)

令和元年12月

- 2日 2020年度第51回学校保健・学校医大会(富山)実行委員会、乳幼児・学校保健委員会の合同委員会(県医)
- 5日 産業医研修会
- 9日 第10回理事会
- 10日 令和元年度地域産業保健センター全体会議
- 19日 富山県医療推進協議会
社会保険医療担当者の個別指導
市立砺波総合病院肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会
令和元年度肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会
市立砺波総合病院 肝臓病教室

令和2年1月

- 14日 社会保険委員会(県医)
- 15日 在宅医療支援講座
- 16日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 20日 第11回理事会(移動)
砺波在宅医療支援センター運営委員会
- 22日 砺波市糖尿病対策地域連携連絡会
- 25日 令和2年度砺波准看護学院一般入試
- 28日 学術講演会
「サルコペニアと栄養」
金沢赤十字病院 医療社会事業部長 宮下 知治
- 31日 砺波准看護学院令和2年度一般入試合否判定会議・運営理事会

令和2年2月

- 1 日 富山県医師連盟第2回執行委員会
新春の集い【医療政策セミナー】
- 4 日 砺波准看護学院入試合格発表
- 5 日 社会保険医療担当者の新規個別指導及び個別指導
- 9 日 砺波市在宅医療介護連携推進研修会
- 17 日 令和元年度第2回臨時社員総会
第12回理事会
- 25 日 令和元年度砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会
学術講演会
「富山大学におけるADPKD診療の現状」
富山大学 学術研究部 助教 山崎 秀憲
- 27 日 市立砺波総合病院 肝臓病教室

令和2年3月

- 2 日 県・郡市医師会協議会
- 5 日 第54回砺波准看護学院卒業式
産業医研修会
富山県在宅医療支援センター運営協議会
- 9 日 第13回理事会
砺波在宅医療支援センター運営委員会
- 18 日 令和元年度第2回砺波地域MC協議会
- 19 日 令和元年度第3回臨時社員総会
- 26 日 第200回富山県医師会臨時代議員会
- 27 日 砺波市福祉計画評価委員会
- 30 日 富山県医療審議会及び同地域医療構想部会並びに富山県医療対策協議会

令和2年4月

- 9 日 第56回砺波准看護学院入学式
- 13 日 第1回理事会
- 24 日 第2回理事会

令和2年5月

- 19日 第3回理事会
- 20日 地域外来・検査センター設置に係る連絡会

令和2年6月

- 1日 監事会
県・郡市医師会協議会
- 3日 地域外来・検査センター設置に係る連絡会
- 8日 第4回理事会
- 17日 地域外来・検査センター（砺波医療圏）設置準備会
- 19日 特定健康診査等事務説明会
- 24日 令和2年度定例社員総会
- 25日 第201回富山県医師会定例代議員会
- 29日 2020年度富山県医師連盟執行委員会

令和2年7月

- 7日 砺波地域MC協議会
- 13日 第5回理事会
砺波在宅医療支援センター運営委員会
- 14日 富山県医師国民健康保険組合 臨時組合会
- 16日 砺波市健康づくり推進協議会
- 21日 令和2年度砺波市歯科保健推進協議会
- 27日 第51回全国学校保健・学校医大会実行委員会、乳幼児・学校保健委員会
合同委員会（県医）

令和2年8月

- 11日 第6回理事会
- 19日 砺波市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク運営委員会
- 24日 在宅医療介護支援巡回講座

令和2年9月

- 2日 令和2年度第1回広報委員会
- 3日 特定健診・がん検診委員会（県医）
- 7日 在宅医療介護支援巡回講座
- 9日 第1回砺波市福祉計画策定委員会
- 14日 第7回理事会
- 19日 県・郡市医師会協議会

令和2年10月

- 1日 砺波准看護学院第56回戴帽式
- 5日 在宅医療介護支援巡回講座
- 12日 第8回理事会
- 13日 介護保険－主治医研修会
- 14日 在宅医療支援講座
- 27日 学術講演会

「砺波で10年後の血圧管理を考えてみた」

市立砺波総合病院 循環器内科 医長 黒川 佳祐

「循環器領域における再生医療開発」

金沢大学 循環器内科 教授 高村 雅之

永井忠之先生を偲ぶ

山本内科医院

山 本 郁 夫

猛暑が続く7月末、先生の訃報に接しました。

まことに急なお別れに驚きました。2年前より体調を崩され、入退院を繰り返されてきました。ようやく病が癒え、退院され、「やっとのんびり、家で過ごせるようになった、これから君に診てもらおうからね。」と今後の定期診察を依頼されたのが亡くなられる3週間前のことでした。

先生は昭和37年金沢大学医学部を卒業され、当時、東京大学から赴任間もなくの村上元孝教授が主宰される金沢大学第2内科に入局、優秀な者しか入れないと言われた教授直系の脂質動脈硬化研究室に入られ、研鑽されました。その後高岡農協病院（現 厚生連高岡病院）に勤務されました。

私が先生とはじめてお会いしたのは、45年前、大学医局から同病院に出向した時でした。現在のような研修制度もなく、卒後2年目の者にとっては、極めてハードな仕事の連続で、自分の非力が情けない日々でした。オーベンとなられた永井先生には穏やかではあるが厳格で適切な指導を頂き、貴重な経験をさせてもらいました。

先生は平成6年、永らくの勤務医を終えられ、故郷の砺波市柳瀬で開業されました。その際、「マイペースでのんびりやっていきたい」とおっしゃっておられましたが、開業後最初の年の“住民健診”では「300人も来た。」と驚いておられました。地元の方々から先生の地域医療期待がはじめから多かったものと思います。比較的ベテランの域で開業され、のんびり仕事されたいと言われた割には、校医・園医、警察医、その他地域医療の役職も多く担われ、温厚・堅実で多忙なご活躍をされました。また、たいへん勉強熱心で、研修会、学術講演会には頻回に参加されていました。遠方で行われる医学会にはよく奥様同伴で出席され、「半分は観光でこれが楽しみなんだ。」と照れて言われていました。

最後にお会いした時は大変お元気で、まだまだ温和マイペースな生活を送られるものだと思っていました。

ご冥福をお祈りします。

私のガーデニング

力耕会 金井医院
金 井 英 子

道路と用水を挟んだ隣の家のご当主が亡くなられた時に、我が家の周りの大きな田んぼを3枚買い取りました。

買ったばかりの時は綺麗な砂地でしたが、ほどなく丈の高い草がどんどん生えてきました。草刈機を買って草を刈り除草剤をまいて見苦しくない程度に体裁を保つのが大変でした。ある時、空き地のあちこちに花が咲くようになりました。そういえば、庭に紫蘭が増えすぎたので、沢山引っこ抜いて空き地に捨てた事を思い出しました。紫蘭は球根なので、枯れないでそこに根を張って群生したのです。ただ草を刈るだけではなく、せつかく空いた地面があるのなら少し花でも植えてみようと思いました。やはり、庭で際限なく広がっていくヒルサッキミソウを自宅に一番近い隅っこに植えてみました。その部分だけは鎌で草を刈りました。1年に3mくらいずつ範囲が拡大しました。数年後には、元の田んぼの1辺がヒルサッキミソウの花壇になりました。

ヒオウギスイセンやアジュガ、そして遅しい紫蘭なども植えました。少し木を植えれば、そこだけは草が生えないだろうと考えて、蘇芳や枇杷、アジサイやナツツバキ、グミや桜、松も植えてみました。蘇芳やナツツバキは種がこぼれて育った苗を育てて植え、アジサイは沢山挿し木して植えました。枇杷は食べた後の種から苗を育てて定置しました。グミは娘が富山に住んでいた時に、隣の家になっている実をいくつか頂いてきて苗を作って植えました。ただし、グミはカラスが大好きで、一粒も食べられないのが残念です。

ナツツバキだけは暑さに弱いようで大きくなりませんが、他の木は見事に育っています。特に枇杷は、沢山実を付けます。枇杷にはカラス除けのネットを被せます。

10年位前から夏の暑さが酷くなり、また日照りが続くようになりました。アジサイは午後に建物の陰になる場所に植えましたが、ここ数年の酷暑には耐えられず葉の先端から枯れて行きます。毎日水やりが必要です。それでも梅雨時に水色や青、ピンクの花が沢山開花すると水やりの苦勞も忘れます。

3月のはつぺらぼうの空き地ですが、最初にアジュガが一面に紫色の花を付けます。また、

プランターに一杯になったチューリップや水仙の球根もあちこちに植えてあるので、それらが春一番に咲き揃うととても綺麗です。次にはマーガレットが咲きます。花が終わると全部引き抜きます。それらを腕一杯に抱えて、まだマーガレットが咲かない場所に放置します。初めは一株だったマーガレットがそのようにして空き地一杯に咲くようになりました。次はヒルサキツキミソウの天下になります。あまりに沢山の花が咲くので通りがかりの方がよく写真を撮られます。その次はヒオウギスイセンやテッポウユリ、それが終わるとコスモスです。8月から咲き始めて秋一杯咲いています。コスモスは背が高いので草が生えても目立たず便利です。びっしり花でおおわれる公園の花壇とは違いますが、季節ごとに色々な花が咲くのは楽しいです。チョウやハチ、鳥も来ます。

花が終わって、引き抜いた株を腕一杯に抱えた時に我が子を抱いた感覚を思い出します。乾いた植物はハーブのような良い薫りがします。もう自立してしまった我が子の代わりにお花を抱いて「良く咲いてくれたね、ありがとうね」と囁きます。自然の中で生きていることを実感します。日焼けはするし、虫にも刺されますが、きっと体に良いのだ！と自分に言い聞かせています。

めっきり涼しくなった早朝に草を刈っていると、近所のおばあさんがヒルサキツキミソウやキバナコスコスを小さいハサミで切っておられるのが見えました。きっと亡くなった大切な方にお供えなさるのでしょう。私は気が付かないふりをして草刈りを続けました。私だけの花壇ではないようで、これからも世話を続けようと思いました。



『ドレーンから〇〇が・・・』

かねきホームクリニック

金 木 昌 弘

先日、医局の友人と医師人生のうちでビックリしたことを話す機会がありました。その中から私事ですが1つご紹介しようと思います。

それは、私が関東のある病院に外科常勤医として勤務していた頃のこと、7月のある暑い日の出来事です。午後1時頃、午前の外来を終え医局で休んでいると、外科のネーベンからコールがあり、『〇〇さんが病棟にいない、探しているが見当たらない』とのこと。〇〇さんとは、5日前に胃潰瘍で胃切除をおこなった少し認知がある（かなり認知がある？）70歳台の患者さんです。看護師、医師らで院内、近くの院外を探すも見当たらず、行方不明者として警察に通報しようとも思い焦りだしてきた時でした。行方が分からなくなってから約2時間後の午後3時、ネーベンより報告があり、病棟に戻ってきたとのこと、ホッとしつつ病棟にいき〇〇さんと会うとなんだか風貌が違って見えました。担当看護師からは、帰ってきたときは衣服が濡れていた、聞くと『暑いので川で泳いできた』と言われたとの報告を受けました。

それを聞いて愕然としました。川で泳いできたこと自体驚くべきことですが、それ以上に〇〇さんは術後5日目でありまだ抜糸も終わっておらず（腹部正中切開）、何よりドレーンも入っていたまま（当時胃切除後はルーティンのウインスロー孔ドレーン）だったからです。危惧したのはドレーンより逆行性に川水が入り込んで腹腔内感染をおこさないだろうか、感染で吻合部が泣き別れ（縫合不全のこと）にならないだろうかでした。ネーベンは「ドレーンより腹水ではない水が出ていて、泥と一緒に小さな魚のようなものが出てきました??」と言い出すし、手術（再開腹、洗浄ドレナージ）を考えCTを撮るも腹腔内液体貯留を認めるも術後反応性腹水ともとれる量で、どうしていいのか途方にくれました。まずは創部を念入りに消毒し、ドレーン液を培養に提出、熱もなく全身状態も変化ありませんでしたので、そのまま抗生物質投与のみで診ることとしました。数日は枕を高くして眠れませんでした。〇〇さんのその後の経過ですが、不思議と普通の術後患者さん以上に極めて順調で、創感染もおこさず、腹腔内感染もおこさず、念の為長期留置したドレーンを抜去し、軽快退院されました。

今はヒヤリハット、医療事故など医療者の責任が大きく、今このようなことが起きれば患者さんの治療以上にしなければいけないことが多いように思います。

この文章を書き終わって、「あの頃はよかったな・・・。」とホッとしています。

薪ストーブの楽しみ

となみの心療クリニック

金 田 学

朝夕はかなり冷え込みも増し、秋も深まってきました。晴れた日には、紅葉（黄葉）と青空とのコントラストが美しい季節です。屋内でも暖房が必要になってきましたが、皆さんのうちではどのような暖房器具で暖をとっておられるのでしょうか？エアコン、床暖房、蓄熱式暖房機、パネルヒーター、温風ヒーター、石油ストーブ、こたつ、囲炉裏、火鉢など、新旧いろいろな選択肢がありますが、我が家では、薪ストーブを冬の暖房の主役として使っています。家を建てたときに導入して、かれこれ 10 年余りの付き合いになります。

毎年寒くなってくると、今年もいよいよ薪ストーブを使う季節がきたな、という少しわくわくした気持ちになります。そのような気持ちで冬をむかえるには、よく乾いた薪の準備が欠かせません（乾きの悪い薪は燃えが悪く、炉内の温度も上がらず薪ストーブや煙突を痛めます）。よく乾いた薪がたっぷりと蓄えてあると、もう冬が来ても怖いものなしです。

春になると、次のきたるべき冬に向けて薪の準備が始まります。我が家では、毎年約 2 トンの薪（樺や楓などの広葉樹）を砺波市などの森林組合から大割りした薪で購入し、これを自分で適当なサイズに薪割りをします。2 トンの薪割り作業は結構な肉体労働にはなりますが、斧を振り下ろしてスパッと薪が割れるときの爽快感や、薪が薪棚に少しずつ増えてくる達成感は、春のひそやかな楽しみでもあります。春はそうように時間をみつけては、薪割り作業にいそしみます。そうして積み上がった薪を日々横目で見ながら、冬を迎えるわけです。

薪ストーブの魅力は何ととっても、赤々と燃える炎です。夜、ゆらめく炎を上げながら薪が燃えていく様子をぼんやりと無心に眺めているだけで、一日の疲れやストレスがリセットされる気持ちになります。屋外がキンキンに冷えこめば冷え込むこむほど、そのような視覚的効果と共に、炎の暖かさがジワリと沁みてきます。薪ストーブの暖かさは特別な感じがします。おそらく、春に一本一本自分で汗をかいて割った薪が燃料であることも、暖かさに特別な影響を及ぼしているのかもしれない。



新型コロナ騒動で気づいたこと

河合医院

河 合 晃 充

2020 年に入り、中国武漢発とされる新型コロナウイルス感染症は、日本に上陸し、全都道府県に緊急事態宣言が発せられる騒動となり、8 月に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックも延期となってしまいました。その後、宣言解除となりましたが、東京をはじめとした都市部を中心に再びPCR検査陽性者が増加し、第2波といえる状況となってしまいました。一方、巷では「自粛警察」などと、わかりやすい攻撃対象を見つけ、行動を強要したり、罰することに快感を覚えるという行動も見られてきています。またそれに伴う風評被害が発生することもあります。こうした行動は脳内のドーパミンの放出を伴うため、さらに快楽を求め、攻撃をし続けるという循環から簡単に抜け出せなくなるといわれています。脳科学者の中野信子氏はこうした認知行動を「正義中毒」と呼び、危機的な状況になればなるほど盛り上がりやすい素地があると述べています。今迄当たり前のように行われていた様々なイベントが中止となり、「GOTO～」など新しい取り組みがあり、どのような行動をとればいいのか非常に悩ましい状況が続いています。一方で感染への恐怖は去ったわけではなく、診療・検査など当たり前に行ってきたことにおいても、感染防御のための細心の注意が求められます。会議も学会や講演会も軒並み中止となっていました。最近ではリモートやWEBでの開催が行われるようになり、随分慣れてきました。ライブだけでなく、オンデマンド配信などもあり、移動もせず、自由な時間に視聴できるなど、意外にこれでもいいのではないかと思います。新型コロナ騒動で半ば強制的に様々な環境が変わってきていますが、却って色々と気づいた事もあります。プラス思考で乗り越えていきたいですね。



学校医になって 50 年

河合医院

河 合 康 守

私は昭和 42 年 6 月、砺波市中央町で河合耳鼻科医院を開業しました。

当時砺波市内には耳鼻科医院がありませんでした。

早速、砺波市より耳鼻科学校医を依頼され昭和 43 年より市内幼稚園、小学校、中学校の校医として勤め始めました。また市内の県立高校二つの校医も務めるようになりました。その内に市内の保育所からも希望がありました。当時は鼻たれ小僧が大変多く洋服の袖口をピカピカにした子供たちが沢山いました。やがて次第にそんな子供は減りましたが、鼻づまりが大変多くなりました。「副鼻腔炎」が少なくなり、「アレルギー性鼻炎」が増加した為でした。それは現在まで続いています。

平成 15 年坂下先生が開業されましたので、市内中学校と砺波の二つの高校をお任せしました。これで少しは負担が少なくなるなと思っていましたが、平成 18 年 4 月から南砺市より小、中学校と、県教育委員会から福野高校、福光高校、平高校の耳鼻科校医を委嘱されました。

幸い平成 17 年 9 月に私の長男が医院を継いでくれましたので、時間の余裕がありましたが、更に、となみ総合支援学校からも依頼されまして、現在に至っております。その間、数多くの子供達を診させて頂きました。

長い間、校医として色々体験して思う事は、日頃接している子供への先生方の指導が大変重要であると思いました。良い指導を受けている生徒の健診を受ける態度に好感を持ちました。素晴らしい大人になってくれると確信しました。

蛇足ですが、永く学校医を務めた事で、平成 24 年 11 月に瑞宝双光章を頂きその折、皇居で当時の天皇陛下に私達夫婦揃って、拝謁することが出来た事は、大変光栄であり、名誉なことでした。

50 年余の間、学校医を無事務められた事は関係の皆様のお力添えと感謝いたしております。今後は次の世代にこの勤めを譲り、見守りたいと思っております。



30年ぶりのピアノ

ものがたり診療所

川 渕 奈三栄

今から2年くらい前、何が契機だったか覚えていないが、無性にピアノを弾きたくなった。さすがにアップライトのピアノには手を出すことはできず電子ピアノを買い求めた。一昔前の電子ピアノとは違い、音色も鍵盤のタッチもアップライトとほぼ変わらないことに感動し胸が躍った。

ピアノを辞めたのは中学2年の時だから、30年は経つ。まずは中学の時に出了たコンクールで演奏した Lange『花の歌』の楽譜を前に、恐る恐る鍵盤をたたいてみた。多少、指がからまる部分もあったが何とか弾けた。これまた感動…。身体で覚えたことは忘れにくいと昔から言われているが、まさにこのことだと実感。弾いていくうちに次々と楽譜の読み方、指の運び方が蘇ってきた。

ここ最近、陳述記憶が怪しくなってきたので手続き記憶だけでも鍛えようと思い、それから時間があれば好きな曲を“ぶりんと楽譜”から購入して楽しんでいる。ちょうどコロナ禍でステイホーム時間も多くなり、ストレス発散にもなった。

そして、当診療所には隠れたボーカル・ドラマー・ギタリスト・そして三線奏者が揃っていて、先日即席バンドとして「涙そうそう」「糸」「パプリカ」「奏」を披露することができた。単純に楽しかった。

子供の頃は嫌いでも泣きながら練習していたピアノだが、この歳になって役立つとは…。教えてくださった先生、そして習わせてくれた両親に感謝している。

次は、娘のリクエストでもある、今社会現象を引き起こしているアニメの主題歌に挑戦してみようかな…。



あらためて歴史に学ぶ

市立砺波総合病院

清 原 薫

作家の堺屋太一さん（故人）は、歴史上の出来事を経済など社会の変化と関連づけ、本質を突いた解説をされました。元々通産省官僚だった堺屋さんが経済の立場から歴史的出来事を解説されると、政治的記述の多い歴史教科書で学んだ私のようなものには、政治的出来事が起きた理由が分かり易く、すつんと腑に落ちる面白さがあります。

また、組織の栄枯盛衰について、組織が社会の変化にあわせて体制を変えられなかったり、内部の人間関係が悪くなったりすると脆弱化し、そこに外から力が加わると崩壊して新しい組織に取って代わられるとされ、このことを「組織は内部から崩壊する」と表現されました。そういう見方をすると、なるほど「歴史は繰り返す」と思えます。

例えば織田信長は社会の変化に乗って経済力を付け勢力を拡大しましたが味方に滅ぼされ、最終的に天下を統一した徳川幕府も米（年貢）から貨幣に移っていく経済の変化に対応しきれず弱体化して官軍に敗れました。

脆弱化した組織に取って代わるのは、その時の社会が向かう方向を予見し、社会の変化に乗った組織のようです。

それでは今の世の中はどうでしょう。

高齢化により医療や介護を必要とする人が増え、これに伴い医療費は増えますが、財源には限りがあり、国は医療費を抑制しようとしています。このため医療現場では限られた人数で多くの業務をこなさなければならず、多忙を極めています。

財政的にも労力的には崩壊しそうな医療の向かうべき方向はどこでしょう。

昔の人はそれを自力で予想するしかありませんでしたが、今はコンピューター（人工知能）が予想してくれます。そして出てきたのが病院の集約化と機能分化であり、地域医療構想なのでしょう。

社会の変化を見誤った戦国武将は滅亡の憂き目にあいました。歴史に学ぶことを勧められた堺屋太一さんでしたら地域医療構想についてどのように解説されたでしょう。

コロナ禍に思うこと

となみ三輪病院

酒 井 伸 也

10月19日のたてやま通信で、県内425例目の新型コロナウイルス感染症患者の報告があった。入善町の80代の男性。県内では14日ぶりの患者さんとのこと。これを見て、暗い気持ちになった。80代のおじいちゃんが、ひとり感染病棟に入れられている様子を想像したからだ。80代であれば、コロナウイルス感染が重症化するかもしれない。重症化せず治癒したとしても、ひとり2週間も病室にいたら、廃用が進行したり、認知症が進行したり、いずれにしてもADLが低下するであろうことは容易に想像できる。そんなことを思っていたら、2〜3日後、感染患者登録の取り消しが届けられたというニュースが届いた。その後のPCR検査で陰性が続き、症状など総合的に考えた結果、最初の検査が偽陽性であったと判断したようだ。大変賢明な判断だと思い少し気分が明るくなった。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会（会長：尾身茂・地域医療機能推進機構理事長）は10月29日、第13回会合で、新型コロナウイルス感染症等で陽性になる事前確率の低い無症状者への検査を巡って意見を交わした。検査で得られる「安心感」などについて、医療や公衆衛生を専門とする構成員と経済関係の構成員で意見が割れたが、最終的には無症状者への検査によって「感染制御に成功したエビデンスはない」との見解を取りまとめ、「検査の内容や留意事項を理解した上で受けることが重要」と呼びかけることで一致した。とのことだ。

事前確立の低い無症状者に、検査をすることはあまり意味がない。人的資源を含めたコスト、偽陽性のことを考えたらむしろ有害であるというのは、医師ならわかることであるが、テレビの変なコメンテーターが煽り、さらに、それに乗じる変な医師のせいで、なんだかわけがわからない状況になってしまった。

個人的には、日本でのコロナ対策はうまくいっていると思う。爆発的な感染増加も起きていないし、死者の数もそれほどでもない。10月29日現在、人口100万人当たりの死者数は、全世界で147.69人アメリカ681.97人フランス544.49人スペイン758.55人イタリア623.58人。日本は実に13.68人である。コロナ対策について政府を批判しているマスコミや野党は、一体何に文句を言っているのだろうか？

とは言え私が勤務しているのは、療養型病院で、全患者が重篤な基礎疾患を持った高齢者である。万が一病棟で感染者がでたら、悲惨な結果になることは目に見えている。また、患者さんのご家族には直接の面会を制限させていただいているのも心苦しい。直接見舞っていただくのは、大分状態が悪くなった時である。そんな状況でも家族の皆様には快くご協力いただいている。こういう民度の高さが死者数に現れているのだろうか。とにかく世界での新型コロナウイルス感染の一刻も早い収束を願うばかりだ。

「人と人の距離」

さかした医院

坂 下 英 雄

東京など大都市に行くと、色々な楽しいもの、美味しいものを楽しむことができます。

ただ、残念ながら、人が多くて、何処へ行っても大混雑。土地の値段が高いせいか、お客一人当たりのスペースが狭いと感じます。隣の人との距離、飲食店での自分の使えるテーブルの広さ、居住に使える広さなど。

結局、「人に酔った」疲れと共に帰路に就くことになります。まるで「養豚場」「養鶏場」のようだとすら思っちゃいます。もちろんそんな場所に行く僕自身も、豚の一匹、鶏の一羽ということになるのですが。

その「密」の結果、大都市における新型コロナウイルスの感染拡大。神様からの警鐘でしょうか？

大都市で「隣は何をする人ぞ」と、周りの人を気にしていたら、あまりにも気にしなければならぬことの数が多すぎて、きりが無い。

かといって、ご当地のように、どこそこの誰それが、どうした、こうしたというのも、僕にとっては「気持ち悪い」。

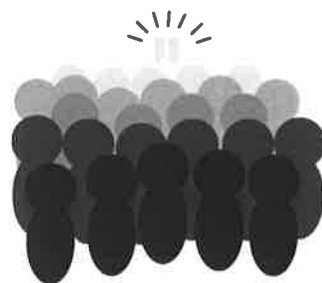
富山県って、砺波市って、「とつても、いい所」、食べ物もおいしいし、自然も素晴らしく、何をするにもすぐに行ける、素晴らしいと思っています。

ただ、富山県って、いい所だけど残念ながら「人がね～～」といわれることがあります。ご当地から「よそ者排除」の気持ちが無くなれば、もっと素晴らしくなるのかな？と思います。

近いうちに、富山県でも、大都市並みに、多くの人が新型コロナウイルスに感染することでしょう。

今怖がっているのは、「新型コロナウイルスそのもの」ではなくて、新型コロナウイルスに感染したと、「人に知られること」。

差別や、誹謗中傷が一番の恐怖。



ご利用は計画的に

さかした医院

坂 下 泰 雄

「ついさっきまで横なぐりの雨でしたが、今は小康状態となつてしまいました」

残念そうな表情のレポーターがヘルメットをかぶってそよ風のなか、台風接近の中継をしています。

ふっ、語るに落ちたな、お若いの。もっと降ってほしいとでも願っておりなさるかいのお。

相変わらずテレビに低レベルのツッコミをしている坂下@内科です。

江戸時代の俳人、横井也有が老化の兆候を詠んだ狂歌を見つけました。

しわがよるほくろができる背がかがむ あたまがはげる毛が白くなる

私、絶賛老化進行中のございます、実際のところ。

加えて、腰が痛くなったり、走るとビーンと痛みが走ったり、おかげさまで病の兆候も完備いたしております。

老いの実感を堪能しつつ、勝手気ままに旅行を楽しむにはどうしたらいいのかと考えます。段階的に制限が多くなっていくと思うんですよ、この先。山登りは無理とか、長距離の移動はしんどいとか。旅行の計画も、これならまだいけるんじゃないか？というものを優先して楽しんでいかなくちやなあと。

あそこに行ってみたい、あれを見てみたい、食べてみたいという望みをかなえるためには、体力、気力、時間のご利用は計画的につてことですね。

最後に自省を込めて横井の狂歌をもう一首。

くどくなる気短になるぐちになる 思いつくことみな古くなる



今思う 昭和の歌、あれこれ

佐藤内科クリニック

佐藤 重彦

令和2年3月15日の青春ポップスコンサートを妻と心待ちにしていた。新湊中央文化会館で、太田裕美、庄野真代、渡辺真知子がそれぞれの持ち歌を歌うものであった。この3人の活躍は昭和50年代で、小生は大学生であった。歌謡曲、フォークソングにポップス、ニューミュージックが加わった頃だ。カーステレオから流れる明るい音楽に、ドライブの気分も高揚したものである。

コンサートは残念ながら新型コロナウイルスの影響で開催できなくなってしまったが、嬉しいことに最近、テレビ番組でこの頃の音楽の特集が組まれる機会が増えた。また、テレビCMでも聞き覚えのあるメロディーが流れている。今年10月7日に作曲家の筒美京平が亡くなられたが、その2週間後に日清シーフードヌードルのCM「ほぼイカ登場 篇」で歌詞を変えた「夏色のナンシー」が流れた。歌っているのは早見優本人だ。明るい、ポップなメロディーで、37年前の曲とは思えないほど新鮮であった。この曲は平成21年にアニメ「そらのおとしもの」で野水伊織がカバーしており、当時はアニソンに夢中の息子と聴いていた。小生にとっては馴染みの曲だが、こうして形を変えながら若い世代に受け継がれてゆくのは感慨深い。

筒美京平については7年前に『筒美京平 HITSTORY 新装版』がCD9枚組で発売されており、173曲収録されている。いしだあゆみの「ブルー・ライト・ヨコハマ」（昭和43年）、尾崎紀世彦の「また逢う日まで」（昭和46年）は初期の代表曲。太田裕美の「木綿のハンカチーフ」（昭和50年）、庄野真代の「飛んでイスタンブール」（昭和53年）は先の青春ポップスコンサートでも歌われる予定だった。そして松本伊代の「センチメンタル・ジャーニー」（昭和56年）については誕生秘話があつて、湯川れい子のメモのような詩に即興で作曲しデビューする松本伊代に捧げたものだという。その軽快なメロディーも、今もよく耳にする。

「夏色のナンシー」、「センチメンタル・ジャーニー」とも、彼女たちがより輝くようにイメージして作曲されている。先日、40年前に引退した山口百恵の昭和55年10月5日の武道館コンサートの放送を見て、当時21歳とは思えない表現力に感動した。彼女は14歳でデビューしたアイドル。初期の曲は千家和也作詞・都倉俊一作曲だったが、昭和51年6月の「横須賀ストーリー」から歌い方、表現が変わる。阿木燿子作詞・宇崎竜童作曲のこの曲は、山口百恵自ら依頼して生まれたといわれているが、彼女にこんな曲を歌わせたい、歌ったらもっ

と大きく羽ばたくだろうという作り手の思いが感じられる。この曲以降、ステージでの姿勢、踊り、パフォーマンスが格段に輝いてきた。やがて「いい日旅立ち」、「サヨナラの向こう側」など心に染みるバラードの歌い手に成長していった。

昭和の歌は作詞家、作曲家、編曲家が力を合わせて生み出され、歌手はその思いを表現してきた。彼らの魂の合作は、令和の時代になってもなお多くの人の心に響き、これからも燦然と輝き続けるのだろう。などと、あれこれ思い巡らせながら、今ではカセットカーステレオからマルチメディアのカーオーディオに進化を遂げた愛車を運転しつつ、妻とともに青春ポップスを楽しんでいるのである。



雑 感

さわだクリニック

澤 田 樹 佳

開業して2年が経ちました。長いと感じる日もありますが、総括すると「驚くほどあっという間」でした。充実した日々を送っているにもかかわらず、開業日のことを昨日のように思い出すことができます。この間、ご迷惑しかかけず、それでも温かい目で見守ってくださった近隣の先生方には一生頭が上がりません。ありがとうございます。受けた御恩は倍以上でお返しします。

開業を機に生活様式は一変したと感じていましたが、まさかそれ以上の年がやってくるようになるうとは予想外でした。もう2年、コロナ禍が早かったら開業してたかどうか…それくらい大きなインパクトを人生に与えています。国内はもとより世界各国ではさらなるコロナ禍に見舞われており収束は見通せていません。未知のウイルスゆえ戦い方や付き合い方は手探りですが、先人達は現代ほどの知見やテクノロジーを持たずに種々の未知の疾患に立ち向かっていったことを思うと畏怖の念を抱かずにはいられません。今年の個人的ニュースは「訪問看護ステーション立ち上げ」にすると決めていましたが、つくづく未来は見通せません。

現在、マスクの着用や密の回避など新しい生活様式への転換が求められていますが、医療の原点は患者との密な関係の構築です。ラポールが構築されてこそ質の高い医療の提供が可能になります。当院ではオンライン診療も積極的に導入してみましたが、得られる情報量や診断の精度など到底、対面臨床に変わるものではないと感じました。幸いにして考える時間だけは十二分に確保することができます。医療も新しい生活様式に適応させるにはどうしたら良いのかを夜な夜な模索しています。患者さんが動くのではなく、病院が動いてはどうか、などこれまでに考えられなかった発想で来るべき新しい時代の波に対応しようと思っています。

一方、プライベートでも新しい生活様式への適応が急務です。杏和会をはじめとする懇親会の場合は尽く中止となり嘆かわしい限りですし、旅行も行けず自粛こそが正義となっている現況に強い違和感を覚えます。ただ、私には船舶免許（1級）、狩猟免許という新しい時代に即した免許がございます。ソロキャンプなるものも流行しているようですので、夏季は船の上で過ごし、冬季にはソロキャンプしながら狩猟を行い山林で生活する、そんなソーシャルディスタンスを遵守したプライベートを過ごすことも出来ます。

まだまだ予断の許さない社会ですが、少しでも前を向き、楽しいことを考えながら公私ともに備えを怠ることなく日々を過ごしたいと思います。

新入会員紹介

ものがたり診療所

若 栗 良

このたび砺波医師会に入会させていただきました、ものがたり診療所の若栗と申します。出身は富山市で秋田大学へ進学し、卒後に富山へ戻り初期研修を行いました。初期研修で総合診療に興味を持ち、富山大学総合診療部に所属しました。大学病院や南砺市民病院で後期研修を行い、市立砺波総合病院でも小児科研修で3ヶ月間大変お世話になりました。

その後は岐阜県飛騨市神岡町の飛騨市民病院で2020年3月まで勤務しておりました。医師だけでなく様々な医療職が不足しているという状況はなかなかハードでしたが、まさに総合診療を地で行く病院でした。転院搬送も頻繁で、富山から飛んでくるドクターヘリは頼みの綱でした。他方、在宅医療については難しく叶わず、残念なこともしばしばありました。患者さんの生活から支えるために多職種連携、また地域との関わりの必要性を感じています。

今春よりものがたり診療所で、在宅医療を中心に患者さんを支え、地域の力になれるよう精進して参る所存です。諸先生方におかれましては、今後大変お世話になることと存じます。今後とも何とぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



砺波医師会誌 第213号

編集後記

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、わたしたちの生活が大きく変わりました。

学校はオンライン授業、仕事はリモートワーク、電話診療やオンライン診療、Web講演会にZoom会議、外食のテイクアウトやオンライン飲み会など、人との密な接触を避ける生活を求められています。そんな中、コロナ禍の自粛でテレビ番組も制作が止まり、古いドラマなどが放送されていて、懐かしく観ていたら、なんだか違和感を感じました。ドラマでは主人公が帰宅後、カバンを置いたらすぐに冷蔵庫から飲み物を取り出し飲んでいいる！あれっ、手洗いしなくちゃ。エレベーターで密のままお喋りしている。駄目だよ！ああ、「新生活」中の自分には気になってしまう。

さて、話は変わりますが、視覚は人間が得る情報の8-9割を占めると言われています。治療では点眼後1分間以上は目を閉じるのが望ましいのですが、1分間きちんと閉瞼するのは意外に難しく、すぐに目を開けたくなるのは情報の遮断による不安のためでしょうか。反対に座禅では無の境地になるよう目を閉じるのですが。視覚障害者手帳の記載病名からの統計結果によると、糖尿病網膜症の占める割合が下がってきています。1988年度は1位(18.3%)、2004年度は2位(19.0%)、2009年度は2位(15.6%)、2015年度は3位(12.8%)です。内科と眼科の診療連携が普及し網膜症の早期発見、各種新薬による糖尿病の治療の進歩、網膜症の治療の進歩、などにより網膜症の重症化を回避できるようになったことが考えられます。ちなみに1位は緑内障です。視覚障害は生活の質を低下させます。高齢者では転倒による骨折やそれに続く歩行障害、うつ病、社会からの孤立、家族の介護負担など、いろいろな問題が出てきます。

医療機関では各科で患者様の受診控えがまだ続くのかもしれませんが、病気の早期発見、早期治療ができることを願います。

豊田 葉子 記

〔広報委員〕 豊田 葉子、津田 博、山田 泰士、柳澤 伸嘉

